

国立民族学博物館（以下、民博）が所蔵するジョージ・ブラウン・コレクション（以下、G.B. コレクション）は、ウェスリー派メソジスト教会の宣教師であり神学博士でもあるジョージ・ブラウンが、南太平洋諸島での伝道活動のかたわら、19世紀後半から20世紀初頭にかけて収集した歴史的・文化的にも重要な民族誌資料である。そして、このコレクションは、ブラウン自身の民族誌学や博物誌学への関心を今に伝えるとともに、当時の人びとの生活の様子やブラウンと彼らとの関係のあり方、さらには、収集地で現在暮らす人びとにとっても祖先の暮らしを洞察する材料になるという意味でも、貴重な文化遺産といえる。



ブラウン一家が住んでいた家は、シドニー郊外のゴードンに残っている（2007年2月、林勲男撮影）。

コレクションの来歴

1917年4月7日夜10時過ぎ、シドニー郊外のゴードンで、ブラウンは82歳の生涯を閉じた。彼の死を伝える週明けの9日月曜日のシドニー・モーニング・ヘラルド紙は、3,000点を超える民族誌標本資料が保管された自宅の一室は、あたかも博物館のようであったと記している。これが、G.B. コレクションである。翌年、遺族はシドニーのオーストラリア博物館に対して売却の打診をしたが、博物館側はすべてではなく一部のみの購入の交渉をしてきたため、コレクションの分散を回避したいと望んでいた遺族との折り合いがつかず、結局もの別れに終わった。

彼の死後設立されたブラウン財団は、1921年、イングランドのバーナード・キャスルにあるボウズ博物館にコレクションを売却した。ブラウンの生まれ故郷の町である。しかし1954年、財政上の理由で、ボウズ博物館はコレクションをニューキャスルのキングズ・カレッジ（現ニューキャスル大学）に売却。同大学のハンコック博物館が管理責任を負うことになったが、大学の運営資金確保の必要から、1974年にコレクションを手放すことを決断した。この時に、購入に関心

を示したのが、オーストラリア博物館であった。同博物館は、ブラウンがみずから撮影した、約900枚のガラス乾板をすでに所蔵していたため、民族誌資料にも強い関心を持ったわけである。しかし購入資金を用意できず、コレクションはサザビーズを通じて売りに出された。

1986年、サザビーズからの打診を受けて民博がこのコレクションを購入することになると、G.B. コレクションは、西太平洋の文化研究にとって極めて重要なものであると、英国の人類学者や博物館関係者から、国外への売却への批判の声があがった。結果として、16,000ポンド以上の評価額が与えられた19点の資料は国外へ持ち出す許可が下りず、そのうちの11点が英国内の大学や博物館が購入し、8点は遅れて民博に入るようになった。19点すべてはニューアイルランド島のマランガン儀礼に関わる彫刻品で、欧米の博物館や収集家の間で注目されるようになっていた。当初、遺族が望んだコレクションの一括管理は、こうして崩れ去った。

宣教師・コレクター・民族誌学者

オセアニアで、博物学資料の大規模な収集が最初におこなわれたのは、18世紀後半のジェームズ・クック率いる3度の航海の時であった。そして1795年設立のロンドン伝道協会の創設者たちは、出版されたクックの航海記録を読み、太平洋地域での最初の伝道地をタヒチ島に決定した。その伝道活動は、やがてソサエティ諸島の他の島々、さらには南太平洋の西方へと拡大していった。19世紀初頭になると、サミュエル・スタッチパーリやヒュー・カミングなどの英国人博物学者も、動植物や鳥類、貝類、鉱物類の収集に南太平洋を訪れるようになり、ロンドンの王立植物園（キュー・ガーデン）、リンネ学会、地質学会などにも重要な標本資料が提供され、チャールズ・ダーウィンの研究の発展にも大きく貢献した。こうした博物学者の収集活動を現地で支えたのが、ロンドン伝道協会をはじめとしたキリスト教宣教師たちであった。彼らは伝道のフロンティアにおいて、自然科学の先端知識に触れることができたわけである。そして、『種の起源』の発表はキリスト教教会を震撼させたが、宣教師たちの中には、自然科学者の研究を補佐するだけでなく、みずから博物標本を採集したり、自然科学の分野で著作を発表する者も現れてきた。

最初の赴任地であるサモア諸島でのブラウンの博物学への関心は、民族誌標本よりも自然史標本にあった。そこでの14年間の布教活動の後、1874年、ビスマーク諸島での活動資金調達のためにオーストラリア南東部とニュージーランドの諸都市を講演旅行している。この時に、彼は各都市にある博物館や図書館、そして植物園を精力的に訪ねて、関係者に会っている。英国からの博物学者であるアナトール・フォン・ヒューゲルに出会ったのもこの旅行でのことであった。民族誌資料は、生活の様々な場面で使用されているものを広範囲に収集すべきことや、現地名、材料、用途などをも記録する

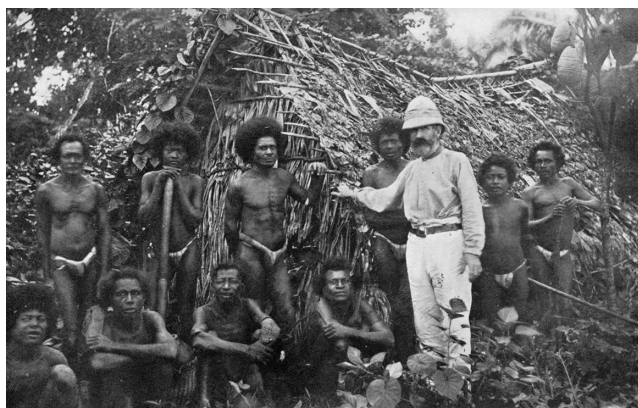
ことの意義を彼から学んだようである。

ビスマーク諸島到着後、ブラウンは民族誌資料の収集を精力的に開始した。王立タスマニア科学協会、王立イングランド地理学会、オーストラリア科学振興協会などの会員になり、関係機関や親交のあった会員へも資料を寄贈している。そして、人類学者のエドワード・タイラーや宣教師であり人類学者でもあるロリマー・ファイソンとの交流を通じて、ブラウンの関心は物質文化だけでなく民族学・人類学へと急速に拡大していった。

情報ミュージアムをつくる

本プロジェクトの目的は、民博所蔵のG.B.コレクションに関係する情報を集約した総合的なデータベースをつくることである。そのためには、コレクションの収集地やブラウンゆかりの土地にある博物館や大学などの研究機関や、同地域に関わる日本国内外の多分野の研究者の協力を得ながら、資料に関する基礎データの充実を図るとともに、民博が購入した際に英国に留め置かれた資料や、ブラウン自身の撮影による写真、彼の日誌や交わした書簡などとの関連付けをおこなう必要がある。つまり、世界各地に散在するブラウンに関する情報を、彼が精力的に収集した民族誌資料を中心に据えて統合し、民族誌家・民族学者としての彼の業績を明らかにしようとするものであり、同時に、彼の遺族の意向に反して分散してしまったコレクションを情報としてウェブ上で再度収集し、紹介することでもある。

G.B.コレクションを構成する約3,000点の民族誌資料は、パプアニューギニア1,532点、ソロモン諸島652点、フィジー138点、サモア240点が主なものであり、これらだけで2,562点を数える。本プロジェクトでは、まずこれら4カ国やオーストラリア、ニュージーランドの大学や博物館などの研究機関と協力し、G.B.コレクションの個別標本資料の基本情報の確度を向上させ、拡充を図るための調査を開始した。ブラウンの収集活動およびコレクションの社会的・歴史的背景については、彼の著作物や書簡、日誌などの文献調査をおこない、さらに彼の活動に関連する多分野の研究者から情報を収集していく。ブラウンによる著書2冊と論文・書簡（マイクロフィルム10巻）は、すでに民博が所蔵している。日誌はシドニーのミッチェル図書館（ニューサウスウェールズ州立図書館の専門図書館のひとつ）に所在を確認しているため、日本とオーストラリアの研究者が、これら文献の調査を実施する。



ニューギニア、ウッドラーク島の人びととジョージ・ブラウン（1890年代撮影、オーストラリア博物館蔵）。



1999年春、民博は特別展「南太平洋の文化遺産—ジョージ・ブラウン・コレクション」を開催した。

また、ブラウン自身が撮影したガラス乾板を所蔵するオーストラリア博物館と、それに加えてシドニー大学の研究者と一緒に、コレクションに関わる写真の選定作業と被写体についての情報を共同調査すると同時に、写真使用に関する協議をすでに開始している。

本プロジェクトでは、2014年度にメラネシアの植物学者であるロビン・ハイド（オーストラリア国立大学）、ニュージーランドの元ソロモン諸島大使で民族誌学者であるリース・リチャーズ、2015年度にフィジーの物質文化の専門家のロデリック・ユウィンズ（タスマニア大学）を招へいし、1週間から2週間にわたってそれぞれの専門領域に関わる資料を熟覧してもらい、データの補足や資料の研究・保存管理上のアドバイスも受けた。

2014年11月には、民博の林とピーターJ. マシウスがニュージーランドを訪れ、オークランド博物館とニュージーランド国立博物館テ・ババ・トンガレワにおいて、太平洋地域コレクション、保存科学、デジタルデータ管理などの各責任者と協議をおこなった。

2015年度は、オーストラリアとニュージーランドでの調査に加え、英国での標本資料、文献資料、ブラウン家に関する調査の実施を予定している。

ジョージ・ブラウン・コレクションに関しては以下のサイトで公開されている。

<http://www.r.minpaku.ac.jp/GBC/minpaku-tab.html>

【参考文献】

- Gardner, Helen 2006. *Gathering for God: George Brown in Oceania*. Dunedin, N.Z.: Otago University Press.
- 林 勲男 2000 「フィールドからの手紙と器物—ジョージ・ブラウンと「肘掛椅子の人類学者」」 吉岡政徳・林勲男編『オセアニア近代史の人類学的研究—接触と変貌、住民と国家』（国立民族学博物館研究報告別冊21号）国立民族学博物館。
- Reeson, Margaret 2013. *Pacific Missionary George Brown 1835-1917: Wesleyan Methodist Church*. Canberra: Australian National University E Press.

はやし いさお

国立民族学博物館文化資源研究センター准教授。専門はアジア・オセアニア地域の災害人類学。編著に『自然災害と復興支援』（明石書店 2010年）、『災害と共に生きる文化と教育』（昭和堂 2008年）など。